

丹生遺跡と奈良・平安時代の上里町



上の図は、奈良時代から平安時代前半の竪穴住居跡が検出された周辺の遺跡です。
この時代の人々は、神流川扇状地の縁辺や御陣場川・神流川の流域で生活していたことが窺えます。平安時代になると、上里町北部の竪穴住居跡の数は減少します。その後わずかに回復しますが、10世紀には集落遺跡の分布の中心が地図外の本庄台地へと移っていきます。

丹生遺跡でも平安時代初頭(9世紀前半)の遺構や遺物は確認されていません。この時期は、律令体制の変容や都の遷都など社会が大きく変化していました。

上里町での人々の動きと、この日本史の流れがどのように結びつくのでしょうか。

ただいま発掘中!

金久保内出遺跡

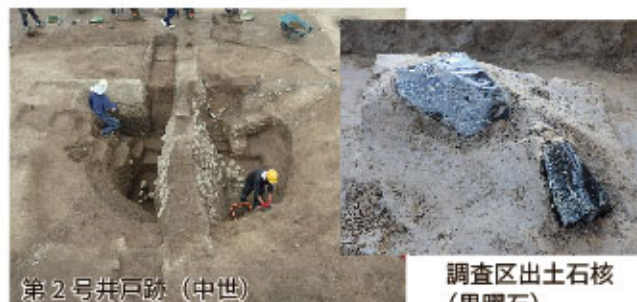
丹生遺跡から西に1kmに位置する遺跡です。
古墳時代から奈良時代の竪穴住居跡が多く発見されています。



第105号竪穴住居跡(古墳時代)

清水南遺跡

丹生遺跡の西に隣接する遺跡です。縄文土器と黒曜石やチャートの剥片が多く出土しています。また中世の大型の井戸跡から、陶磁器や瓦片が見つかりました。



第2号井戸跡(中世)

調査区出土石核(黒曜石)

上里町 丹生遺跡(第1次)



丹生遺跡は、神流川扇状地の扇端に位置し、北には烏川低地が広がっています。遺跡の西には清水南遺跡、金久保内出遺跡があります。

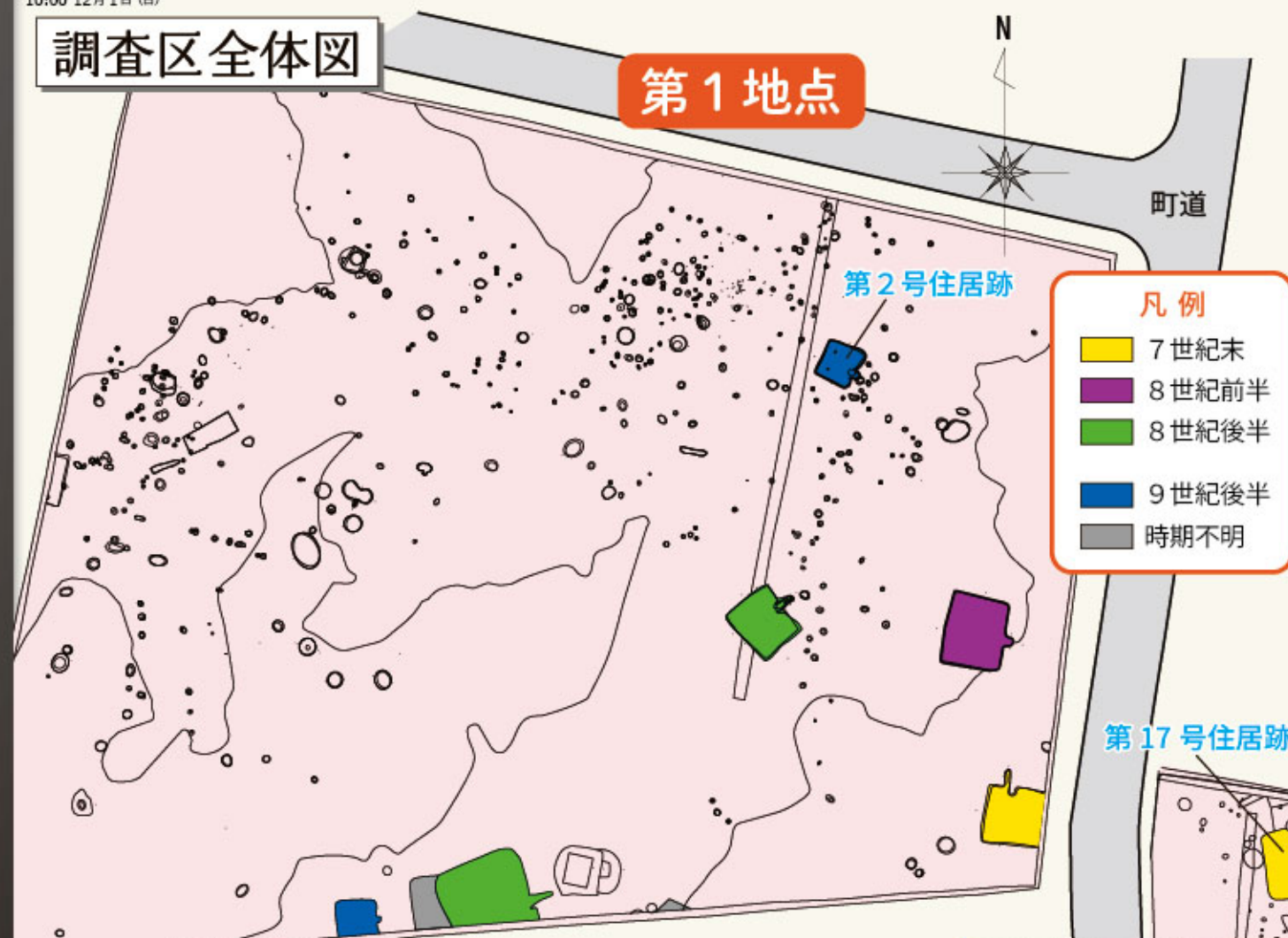
今回の発掘調査では、奈良時代の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡とどこうちゅうきんせいどこうぼ土壌、中・近世の土壌墓や小穴などが発見されました。また、縄文土器もまとまって出土しました。

今回の遺跡見学会では、奈良・平安時代の遺構と遺物を紹介します。

奈良・京都に雅な王朝がつくられた8世紀前半から9世紀に、都から遠く離れた丹生遺跡の人々が、どのような暮らしをしていたのか、ご覧下さい。

調査区全体図

第1地点



凡例

- 7世紀末
- 8世紀前半
- 8世紀後半
- 9世紀後半
- 時期不明

第17号住居跡

第17号住居跡

南壁を中心に、こぶし大から人頭大の礫と7世紀後半の土器が混じり合うように出土しました。

住居跡が埋没する途中、礫や土器がまとまって廃棄された可能性があります。

主な出土遺物

土師器



古墳時代から平安時代にかけて製作された素焼土器の総称です。主に野焼きで焼成され赤く発色するのが特徴です。

須恵器



古墳時代中期以降に日本で生産された陶質の土器です。窯で焼かれ、青色や灰色に発色する特徴があります。

古代の年表

古墳時代 (3世紀～6世紀) 約1700年前～1400年前	飛鳥時代 (6世紀末～8世紀初頭) 約1400年前～1300年前	奈良時代 (8世紀初頭～末) 約1300年前～1200年前	平安時代 (8世紀末～12世紀末) 約1200年前～800年前
埼玉古墳群 稲荷山古墳 5世紀後半 丸山古墳 6世紀前半 鉄砲山古墳 6世紀後半 6世紀半頃 仏教伝来	690 藤原京遷都 701 大宝律令制定 710 平城遷都 724 多賀城設置 741 国分寺建立の詔 743 大仏建立の詔 757 養老律令施行	794 平安遷都 805 徳政相論 820 弘仁格式の撰進(せんしん) 894 遣唐使の中止 939～940 平将門の乱 1180～1185 治承・寿永の乱	丹生遺跡

第2号住居跡

この住居跡は、炭化物和焼土が一面に見られました。火災にあった家屋と考えられます。

床の上からは、9世紀後半の土師器が出土しました。

カマドの支脚やソデの芯材には石が用いられていました。

土壌からも平安時代の遺物が出土しています!!

第62号土壌

写真中央に見える遺物は9世紀後半の灰釉陶器の段皿です。尾張産と考えられます。



灰釉陶器とは? 灰釉陶器は植物の灰を釉薬に使用し焼成した陶器です。平安時代前半に愛知県の猿投窯で生産が始まりました。

第58号土壌

炭化物和焼土を多く含む層から、9世紀後半の土師器とこぶし大の礫が出土しました。



竪穴住居跡に住む

人々の暮らし

住居跡から出土した遺物の一つに、網につける土製の錘(土錘)があります。

7世紀末の住居跡から出土しましたが、8～9世紀の住居跡からは見つかりません。

もしかして、漁をやめてしまったのでしょうか? 謎は深まります。



第2地点

丹生遺跡のまとめ

発掘調査では縄文時代前期の遺物、奈良時代から平安時代と中近世の遺構が発見されています。

奈良・平安時代の住居跡は、7世紀末から9世紀後半までの約200年の時間幅に収まります。しかし、9世紀前半の住居跡は確認されていません。この空白の約50年間、丹生遺跡がどのような状況であったのか今後の調査にご期待ください。